

# 茨城縣護國神社の慰靈碑

## 征清記念碑



陸軍大将大勲位功二級彰仁親王題額

我神州建國以來外征之見于史者蓋十有餘次遠之 神后三韓近之豊太閤伐朝鮮其功烈取卓絶古今而輒近 皇師討清之役實為一役以來之大事矣已起甲數十萬而用兵千里外陸拔堅城海奪大艦而訊誡可以榮京觀也斥地足以廣版圖也其震耀皇威宣揚國光想為如何也其功ケイ軼於豊太閤而其烈實有光于 神后亦可謂古今之大捷也惟其役大故我所喪兵士之數蓋亦不為少矣今以茨城一県算之其戰而斃敵殫殞於膚鋒及盡瘁而病没者不下數百人

之非盡桓桓將士則赴赴

武夫也誰不為國家惜或水戸常磐地素有鎮靈之社祀其嘗至命國事者今茲志士相謀合祀県内之士而死于討清之役者以大修帛祭而又特建一大碑於社側以表彰其忠烈欲使其靈有所憑而其名有所伝為請余撰其文余嘗讀国乘夙欽関東古俗特以義勇著及嚮有事于清聞東兵果克重恥輕死實不負古之勇名之知於彼戰勝攻取益取與有力焉其勲功寧可没哉善乎此拳也余適在任每觀管民婦葬軍士拳郡市輒致哀而今又修祭建碑嗚呼闔縣協力如此其至也亦可謂能体国家待兵士之恩意矣視之太閤征韓之役陣没者無算其屍委原野而不掩其魂彷徨而無所憑之可哀豈其可同日而談焉哉是雖固由昭代之至德也抑亦見東人好義之所致爾夫此勇也義也今併以表之庶幾使後人聞風而有所激勵奮起焉於乎書

明治三十季四月

茨城県知事正五位勲五等江木千之撰  
茨城県書記官從五位勲五等渡邊秀書

### ◆解説

この碑は明治三十年四月すなわち日清戦争の直後、水戸常磐神社内鎮靈社の傍に茨城県人で日清戦争に従軍した將士が国の為に壮烈に戦い戦死し又は病に斃れた数百柱を合祀した際、その名譽を後の世の人々に伝えようと県を挙げて慰靈祭を執り行い建立されたものであります。

碑文の概要は過去に神功皇后の三韓征伐、豊臣秀吉の朝鮮征伐とあったが、今度の日清戦争はその比ではない大戦果であった。

戦が大きかっただけに、我が軍の損害も多ク茨城県だけでも戦死、戦病死者が数百人以上ある。誰か国家のため惜しまないものがあるか。茨城県人は古来から義勇心が強かったが今度の戦役でも勇名を挙げた。後世の人もこの話を聞いて奮起することであろう。



# 特集 沖縄県 遺骨収集活動日記

参加者 権禰宜 馬場 愛

目的：沖縄の山野に眠っておられる英霊を  
捜索お迎えし、慰霊祭を執り行つて  
国立墓苑へ奉葬する。

主催：SYDボランティア友の会  
後援：公益財団法人 修養団  
修養団 沖縄がじまる会

協同：航空自衛隊那覇基地有志

期間：令和四年二月二十五日～三月一日(火)  
場所：沖縄県護国神社、糸満市宇江城、  
真栄平、摩文仁地区

## 二月二十五日(金)

### 結団式、安全確認等事前研修

沖縄県においては新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い「まん延防止等重点措置」指定が一月九日～二月二十日までの適用であったため、少人数での開催となり、感染対策、壕内での安全確立のための入念な事前教育が行われた。

## 二月二十六日(土)

### 壕内捜索 糸満市クラガー

主にクラガーと呼ばれる壕内での探索が行われた。

壕内は光の届かない暗闇で、いくつもの投光器を設置してなお暗く、ヘッドライトを装備した。内部には川が流れ、ひんやりとした空気と水の冷たさで容赦なく体温を奪っていった。足を滑らせて井戸の中に落ちてしまった。

### クラガーとは

元々住民が水汲み場として利用していたこの壕クラガーは第二十四師団司令部がおかれ日本軍最後の抵抗拠点の一つとなった。また病院壕としても機能した。六月二十八日米軍により壕入り口が爆破、馬乗り攻撃にあい、六月三十日師団長雨宮翼中将以下幕僚、兵士が自決。軍旗の奉焼が行われた。

慰霊碑「山雨の塔」が建立されており、第二十四師団の通称号「山」と雨宮翼師団長の「雨」を取つて名づけたとされている。

## 二月二十七日(日)

### クラガー内探索

引続きクラガー探索。壕の入り口は低く狭く何度も頭や身体をぶつけてしまった。欠けた茶碗や小さな袋など名前は分からないが多くの遺品を見つけた。

何件かのお宅にお邪魔してお手洗いを借り、お話

を伺う機会を得た。赤い屋根瓦にシーサーが乗り、開口部の広い沖縄の古民家であった。

## 二月二十八日(月)

### クラガー内探索、慰霊祭、平和祈念公園参拝

### クラガー内探索

壕入口の広場を抜け、くねくねと蛇行する道の奥に大広間が存在する。そこに至る道も水が流れているため、粘土質の土と水をかき分けて進む。大勢の兵隊を収容出来る内部であった。

### 慰霊祭

真栄平の住民の手によって数千に及ぶ戦没者の遺骨が収容された自然洞窟アバタガマに建立されている「南北の塔」において、斎主を牧口八幡社小野宮司様、副斎主を茨城県神道青年会会長で筑波山神社権禰宜の松田様、典儀を沖縄県護国神社加治宮司様の御奉仕で斎行。参列者一同、沖縄戦で亡くなった全ての方への追悼、平和への祈りが捧げられた。

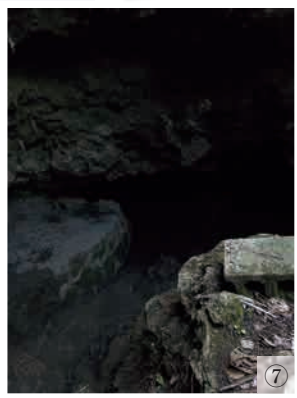
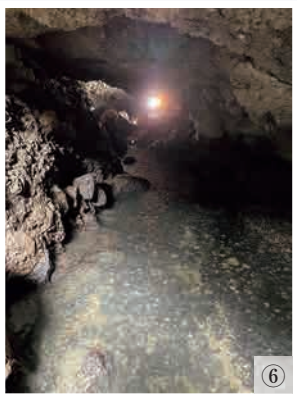
### 平和祈念公園

広大な公園は沖縄戦終焉の地摩文仁に位置し、





写真① ⑥ ⑦……………クラガー  
 写真②……………沖縄師範学校壕跡  
 写真③……………クラガー内作業  
 写真④……………慰霊祭  
 写真⑤……………摩文仁の丘



灯りがないと真つ暗闇

三月一日(火)

解団式

各都道府県の慰霊碑や慰霊塔が建立され、司令部壕や師範学校勤皇隊の壕など多数の壕が残っている。元師範学校の生徒であった方や戦火の中を逃げ続けた方より詳しく当時の状況をお伺いした。

終わりに

今回の沖縄戦遺骨収集活動に参加させていただくにあたりSYDボランティア友の会松谷会長をはじめとする役員の皆様方、遺骨収集活動の心得を懇切丁寧に教授下さった大平順一様、また参加者の皆様におかれましては誠に有難く感謝申し上げます。人生で初めて訪れた沖縄の地は事前の想像に違わずとても美しく心地の良い島でした。この穏やかな島にはおおよそ暴力とか血生臭いとは程遠く、どこか別の場所での出来事かのように思われました。人々の話す言葉も優しいな「うちなぐち」でゆつたりとした時間が流れていました。

しかし足元に意識を向けるとそこには暗く湿った地下空間が広がって全ての苦しみや悲しみがつまっているかのような様子でした。現地での出会い、良くなってくださった皆さんの歴史にもその悲しみが存在しているのだろうか、沖縄に縁を持つ方々の共通の悲しみなのだろうかと思いをいたしました。今回は御遺骨を見つけることは叶いませんでしたが、探索した場所にはいらつしやらなかつたこと分かることも大きな成果なのだそうです。未だ多くの御遺骨が眠られている、探索すべき多くの場所の一つを確認出来たのだということでした。

知識として知っていても実際に壕に入つて自分の手足を使って体験してみなければわからないことは沢山ありました。

当時の苦しみや悲しみをほんのひとかけらでも触れたこの体験を今後の御奉仕に十分に生かして、また世界の恒久平和への思いを二層高めることが出来たと考えております。

ここに改めて沖縄で亡くなられた全ての御霊安かれと祈念申し上げます。



啓明高校美術部



「寅」を描いた大絵馬



紙絵馬



# 大絵馬奉納

水戸啓明高校(同)美術部により干支の「寅」を描いた大絵馬が奉納されました。

絵馬の大きさは縦九十cm×横百六十二cm、美術部の生徒がデザインを練り、たくさん  
の福をとという願いを込めて「百福」の文字を入れて制作されました。  
また生徒が個々に制作した絵馬も併せて奉納されました。

# 紙絵馬奉納

水戸市立見川幼稚園の園児たちにより、絵馬が奉納されました。

絵馬の形をした画用紙にそれぞれ思い  
思いの絵や文字を画面いっぱい元気よく  
描いてくれました。